第19回 市長対談 ～故郷を誇りに思う気持ち～

平成26年10月17日、津市出身の立正大学大学院文学研究科長　三浦佑之さんにふるさと美杉への思いや地域の活力についてお話を伺いました。対談は、映画「WOOD　JOB!（ウッジョブ！）～神去なあなあ日常～」では飯田ヨキの家となった美杉町丹生俣の小倉和夫さん(久居新町在住)のお宅をお借りして行われました。

市長　三浦先生は、美杉町丹生俣のご出身で、昨年、全国ロードショーされた映画「WOOD JOB!(ウッジョブ！)～神去なあなあ日常～」の原作者三浦しをんさんのお父様であり、県立津高校の先輩でもあります。ふるさと美杉にお戻りになった感想はいかがですか。

三浦　数年ぶりに美杉に戻ってきて、とても懐かしく感じました。車窓の風景がどんどん見慣れた景色になり楽しかったです。

市長　三浦先生は現在、立正大学大学院文学研究科長としてご活躍中で、古代文学の「古事記」や、「遠野物語」などの伝承文学の研究を続けておられます。先日、ご著書『村落伝承論』を頂戴し、拝読しましたが、「遠野物語」を題材にした村落における伝承が研究のテーマということになるのでしょうか。

三浦　私のテーマの一つが、古代から現代に至るまで、村の中で、お話はどのようにつくられ、どうやって伝えられ、どのように生きているのだろうということなのです。「古事記」の研究もその中の一つとして考えています。

市長　序章部分で、鉄道と道路について触れていらっしゃいますね。都市を故郷とは違う「異郷」としたうえで、「異郷と村とを直接繋いでいるのが鉄